

## 「その時、どうする？」安全対策ワークショップの開催について

2006年7月10日 ブラジル日本商工会議所

総務委員長 松田雅信・コンサルタント部会長 渡邊裕司

サンパウロの治安情勢は今や世界最悪の部類に属する、と言われ、私達の日常生活において極めて身近に頻繁に凶悪犯罪が発生し、いつ自分の身に起こっても不思議はありません。警察力も必ずしも十分に機能しているとは言い難い面もあり、私達自身が「犯罪に実際に直面したとき一体、どうすればいいか」について学び、「その時」に対処し生命を守らねばなりません。ついては下記により、安全対策勉強会を開催しますので奮ってご参加下さい。

### 記

1. 開催時期：2006年8月15日（火）16：00～18：00
2. 会場：ブラジル日本商工会議所会議室
3. 定員・申込期限：50名（定員に達し次第、締切ります）8月10日（木）
4. 参加費：RS\$10.00/1名（納入参加費は参加キャンセルしても返しません）
5. 講師：
  - 清水俊昭領事（警備担当、滋賀県警より出向）
    - 「最近の凶悪犯罪の種類、傾向について」
    - コージ・ヤナギタ LIFESEC-Sistemas de Segurança e Vigilância Ltda.代表  
元サンパウロ南部管区軍警司令官、同リメイラ管区軍警司令官、退役大佐
    - \* 乗車中・信号待ち時の襲撃への対処～防弾車・非防弾車・タクシー乗車の場合
    - \* 「一時誘拐」Secüestro de relápagóの予防策、被害時の対処法
    - \* 歩行中の襲撃への対処法
    - \* 空港から尾行・目的地での襲撃への対処法等
    - \* 実際の銃器はどんなもの？など基礎知識について
4. ワークショップの運営方法  
ヤナギタ代表のセッションでは講演形式をとらず、いくつかの想定しうるケースを取り上げてシミュレーションを交えて参加者との対話形式で進めます。  
清水領事のお話も極力、ブリーフィングを短くし参加者との interaction を重視する形で行います。
5. プログラム
  - 16：00 主催者挨拶
  - 16：05 清水領事ブリーフィング、意見交換
  - 16：45 ヤナギタ代表シミュレーション、意見交換
  - 18：00 閉会

以上

## 「その時どうする？」安全対策ワークショップ（報告要旨）

2006年8月15日 会議所 渡邊裕司

清水領事（警備担当）、ヤナギタ大佐（LIFESEC 社代表、元軍警司令官）を招き、銃器でのアサルトに遭遇した時、実際にどうすれば命を失わずに済むか、についてシミュレーションを交えた勉強会（参加者 67 名）を行ったところ、大佐説明の要旨概要以下の通り。

## 1.乗車中（信号待ち時）の対処

### <防弾車～3-A 仕様の場合>

ドアを開けてはならない。

必ず前方約 1 台分の空間をあけて停止する。襲われたら車を前後に交互に発進させる。拳銃弾は防弾ガラスのほぼ同一箇所に 5 発被弾して初めて貫通するので、車を動かすことにより被弾箇所を散らすことができ貫通を防げる。

他車にぶつつけられた時は直ぐに外に出ない。防弾車に設備されているマイクで他車と話し相手が怪しくないことを確かめてから外に出て接触する。アサルト目的の故意のぶつつけ、がる。

### <非防弾車の場合>

逃げたり抵抗せずおカネを渡す。

おカネの渡し方：

運転者は「銃器は持ってない Não tenho arma.Calma.」などと言って相手を落ち着かせる。窓ガラスが閉まっていれば両手をハンドル以上の高さに挙げ、片手でドアを開ける。このとき、ドアを開ける方の片手は「今、ドアーを開けるぞ」と下に指差して合図して相手を安心させる。そうしないと反撃する reagir と見られるので危険。

予め 50 レアル程度の入った財布を左胸に入れておき、これを渡す。

渡し方は左手で服の襟をもって内ポケットを見せて相手に盗らせる。

いきなり不用意にズボンのポケットなど下のほうに手をやったり、ポケットに手をやったりすると反撃すると見て直ぐに撃たれる。

### <タクシーの場合>

基本的に上記、非防弾車と同じ。タクシー内に荷物、カバンを不要に置かない。特にオートバイの二人乗りの通過時に荷物を見られると狙われる。

（注） 拳銃の種類：Pistola（非回転式弾装、小口径 13 発装填）

Revólver（回転式弾装のリボルヴァー型、5 発と 6 発弾装の 2 種類）

大佐は拳銃実物 3 丁を聴衆に見せて持たせ銃器を実感させた。

3-A 仕様：サンパウロ市で一般に使用されている防弾仕様

犯人は 1 分か 1 分半位の短い信号待ち時間内に目的を遂げねばならないというあせり、と自信に及ぶかも知れない危険（殺害、逮捕等）により、興奮状態にある。

このため早くカネを出せ（Vamo!Vamo!と言う）とあせるので、財布の中身は大金

かどうか確認するなどはしない。

車の窓ガラスにフィルムを張るのは本当は警察の許可が要るが、治安の悪化で警察は無許可でも黙認している。フィルムの防犯効果はある。

## 2.一時誘拐 Secuestro de relámpago への対処

朝、夕が誘拐被害多く、特に朝が多い。

決まった時間に決まった経路で通勤するのが危険。朝、自宅から 2~3km の範囲で誘拐されている。経路と時間はいくつかの選択肢を準備し毎日、できるだけ変える。

歩行中、つけられると感じたら店に入る、拘束されると感じたら知らない人にでも抱きついて大げさに挨拶する、など対処する。

カード類は不必要に多く持たない。たくさん持つとあちこちの ATM に連れまわされて、あげくの果てに翌早朝にまた ATM に連れてゆかれカネを引き出させられる。

アパートのポルテロは門番の役目しか果たさない。知っている人の顔を見ると自動的にドアを開ける。住人が拳銃を突きつけられていることなど確認しない。従い、知っている人が自宅に来てても状況をよく確認すること。

## 3.空港からの尾行・目的地での襲撃への対処

税関を出たらそのまま到着ロビー階で車に乗り込まず、別階の出発ロビーにエレベータで上り、出口ガラス戸の内側で車を待つ。車が着たら乗る。

駐車場に運転手と一緒に荷物をもって向かうのは最も危険。誰かが見ている。

最近、グアルーリョス空港で犯行を重ねた数グループが捕まったためコンゴニャス空港の方が危なくなった。CGH 空港は特に要注意。パソコンは最近、強奪を防ぐのにリュックに入れるようになったためこのリュック（モチーラ）が狙われやすい。

自分の娘も CGH からの尾行でアパート前で襲われパソコンを盗られそうになったが、そんなものは持ってない、という嘘で何とか強奪を免れたことあり。

尾行を感じずくのは難しいが、ホテルに到着したら先ずは降りずに車で一回りする、怪しいと思ったら駐車場に入る、警察に電話する（パトカー到着まで 30 分程度かかる）。

## 4.その他注意事項

犯人も常に危険と隣り合わせのため自分に降りかかるリスクを意識している。このためできるだけ標的になりにくい行動をとる、犯人にとってのリスクを高める、ことが犯罪被害の予防の基本である。

以上